

KYOWA KIRIN

協和発酵キリン 株式会社



障害者卓球をはじめとした
卓球での幅広い支援

障害の有無に関わらず誰でも 気軽に卓球を楽しんでもらいたい

協和発酵キリン株式会社の特色の一つは40年以上の歴史を持つ卓球部。誰でも気軽に楽しめる卓球の特性を活かし、障害のある方にも卓球を楽しんでもらいたいとの思いがきっかけで、様々な取組を開始。

東京都障害者総合スポーツセンター（北区）と東京都多摩障害者スポーツセンター（国立市）における「みんなで卓球」や「ハートスポーツフェスタ」などの催しの際には、卓球部の選手や協和発酵キリン卓球スクールのインストラクターが20年以上前から参加している。

また、過去には聴覚障害者の卓球支援として世界ろう者卓球選手権大会とデフリンピックへの監督派遣をし、平成24年東京大会と平成25年ソフィア大会では日本女子チームを念願の金メダル獲得に導いた。

さらに、障害のある人もない人も一緒に卓球を楽しむ「ふれあいパーク」を平成26年まで20年間開催。卓球部の選手はもちろん、他社の卓球部の選手、車椅子卓球の国内トップ選手も参加し、延べ参加人数は約5,000名となった。

平成27年12月からは日本卓球リーグ実業団連盟の公式戦終了後、大会開催地の特別支援学校を訪問。生徒の皆さんと卓球を通じて一緒に楽しむ取組を開始した。



第20回ふれあいパークにて



大会の翌日に特別支援学校を訪問し生徒と交流



所在地
千代田区

業種
医薬品製造業

総従業員数
約 7,500 名

卓球の力を信じて東北被災地の元気と笑顔の輪を広げたい

復興応援キリン絆プロジェクト

東日本大震災発生後、被災地での卓球を継続してもらい、少しでも復興支援に役立つことを願って、平成23年から平成26年まで、子供からお年寄り、初心者から上級者まで、そして障害のある人もない人も参加しやすい卓球を通じた支援を岩手県・宮城県・福島県の被災3県を中心に展開した。

卓球部の選手が参加し、卓球教室や卓球交流会などのイベントを通算61回開催。延べ9,768名の参加があった。ふれあいの拠点づくりに貢献したいとの思いから、仮設住宅の集会所へも11回訪問し、卓球を楽しんだ。



協和発酵キリン杯4県（岩手・宮城・福島・茨城）<絆>卓球交流大会で ギネス世界記録®達成

ラリーピンポンリレーでのギネス世界記録®への挑戦を企画。子供たちを中心に、子供たちの指導者、日本卓球リーグ実業団連盟の選手、大会関係者が心をつなげて、139人で絆のラリーをつなげ、新しいギネス世界記録®の達成となった。「記憶だけでなく記録にも残る大会にしよう」との願いが叶った瞬間であった。



卓球台及び備品等の寄贈

津波によって卓球台を失った沿岸部の学校や体育館から卓球台寄贈の要望が寄せられ、合計326台を寄贈した。

① 社員の自立体力検定の実施

町田市にある東京リサーチパーク（研究所）では、社員に運動習慣をつけてもらい、健康診断での有所見者数（健康診断結果で異常の所見のある者）を減らす目的で自立体力検定を実施。検定の1ヶ月前に体を動かす習慣付けとして階段での移動や昼食後のウォーキングなどの具体例をアナウンスし、所内エクササイズ部が主体となり社員に運動習慣の機会を提供している。



② 近隣住民を招いたテニススクール等の開催

東京リサーチパーク（研究所）では、近隣住民との積極的なコミュニケーションや良好な関係の構築を目指し、自社の施設を公開し、様々なイベントを定期的に開催している。テニススクール開催の際には、参加者のレベルに応じてクラス分けを設定し、初心者の方でも楽しんでもらえるよう工夫。さらに、より多くの方々に楽しんでもらえるようテニス以外の運動としてノルディックウォーキング体験会も企画・実施している。



その他の 取組

STAFF'S VOICE

協和発酵キリンにはスポーツを楽しむ社員が沢山います。テニス・サッカー・野球・バドミントンでは毎年、事業所対抗戦を開催しています。地域との共生を大切に、地元の大会に参加することはもちろん、グラウンドを開放したり、子供たちを対象にスポーツ教室を開催したりしています。東北被災地支援では、卓球を通じて絆を育みました。今後も、スポーツを通じて、いきいきとしたまちづくりに貢献したいと思います。